“まなび”と“しごと”が重なる場所

ライトシップ通信
LIGHTSHIP LETTER

2026
No.04
4月30日発行

会社体験記

〝学びながら働く〟学院生のリアルをお届けします

「うまくいくと嬉しい」頑張る高校生と、育てる現場の変化

今日話を伺うのは、株式会社 平林塗装でOJT（On the Job Training／有償インターン）を行う高校2年生の白井さん。社長である平林さんと一緒に、「学びながら働く」感想や思いなどをインタビューしました。

―現在、どんなお仕事をしていますか？

白井「塗装工の見習いとして、現場で先輩職人のみなさんに技術を教えていただきながら、塗装の仕事の一通りを実施しています。規模の大きい現場だと、橋脚や地下道などをやりました」

―なぜこの会社でOJTをしようと？

白井「父親が外仕事をしているので、自分もそれがいいかなと興味がありました。企業説明会で社長の話を聞いてみて、シンプルに家の塗装をしてみたいと思ったこともあります。自分の塗った家などの近くを通ると、つい見てしまいます。笑」

株式会社 平林塗装
創業117年、明日の街を彩る熟練工集団

明治42年の創業以来、100年以上に渡り、塗装工事の専門家として上越地域を支える。熟練の技術を土台として、ドローンなどの最新機材も積極的に活用。公共工事から一般住宅まで幅広く上越地域の美観を守っている。
代表自身が1級建築塗装技能士をもつ熟練の技術者であることも特徴。

平林「この仕事は地味ですが、モノが残ります。〝自分でやった〟と思ってもらえているなら嬉しいです。もちろん現場では、簡単にはうまくいかず失敗することも多いですが、うまくいったときの達成感を感じながら、物事を前向きに捉えることで上達が早まっていきます。そういう意味で、白井さんは前向きに取り組んでくれているので、私たちとして見ていて嬉しいです」

―実際にやってみて、どうでしたか？思っていたのと違うところ、とか。

白井「パテ（下地作り）などの作業を教えてもらった時、そこまでするんだとビックリしました。実際にやらせてもらっていますが、結構難しく、パパッと終わらせてしまう先輩を見ていてすごいと思います」

―今、どんな仕事を任されていますか？

白井「塗装の仕事を、全体的にやらせてもらっています。現場には4～5名のチームで入り、工程ごとに役割分担しながら進めています。役に立っているかというと、少し自信ないです」

平林「十分、白井さんは役に立ってくれています。まず、一人で仕事するよりも二人の方が絶対にいい。半人前でも、1人前の先輩の指示に一生懸命ついていくことで、1.5どころか2人分になる。白井さんは、〝できてなきゃダメだ〟と求めすぎるところがあるけれど、そんなことはない。できるようになろう、できることを増やそうと考え、工夫しながら取り組んでくれていたら充分」

白井「成長し甲斐があるなと思うのは、最初にも言った、パテの作業です。まだ、10回やって2、3回うまくいくぐらいですが、うまくいくと嬉しい。現場の先輩にも、前より上手くなったねと技術的なことを褒められたことが嬉しい」

平林「実は、白井さんを褒めた職人は、普段あまり他人を褒めたりしない人で。その様子を見ていて、すごくビックリした。白井さんが一生懸命、現場にくらいついてきてくれていることで、現場の若手を育てる能力を高めてくれていると思う」

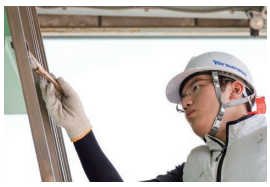
―OJTを通じて「仕事だからこそ学べた」と感じることはありますか？

白井「大人になってからやることを早めに体験できて、良い経験できているなと思います。仕事は、思っていたより手順も多く難しいですが、少しずつ上手くなっていけていると嬉しい」

平林「白井さんは元々まじめにやる性格なのだと思います。作業に対して前向きに取り組み、大変なことがあっても弱音を吐かずにやる。技術はどうしても体で覚えるようなことも多いですが、白井さんは体力があり、粘り強く取り組めている。外仕事に興味があると言ってくれていますが、向いていると思います。ぜひこのまま成長して、一人前の職人になって欲しいですね。」

仕事の内容

塗装工の見習いとして、公共施設や住宅の壁面塗装が主な業務。劣化した壁面を、塗装に適したように整えるところからが作業のスタート。洗浄や下地処理などを経て、丁寧に塗装し、仕上げていく。建物の規模に合わせてチームで仕事を行うことも特徴で、4、5名程度での時もあれば、大規模な施設の際には10名を超えることも。顧客の要望に応じて、性質の異なる塗料を使い分けながら、20年以上保つ美観を作っている。



とある一週間

月	火	水	木	金	土	日
OJT	OJT	OJT	登校日	通信制過程の教科学習	休み	休み

入学式(2期生)を実施しました

学院長から新入生へ「皆さんは勇気を持っている。やってみようと踏み出す勇気が成長を生み出す」

松本学院長から、新入生に向け「開校して間もない当学院を進学先として選択した皆さんの意思を、私は勇気ある行動として高く評価したいと思っています」と、歓迎の言葉を述べた。

以下は、松本学院長から新入生へのメッセージの抜粋。

「私は、新入生一人ひとりが、当学院で職業的スキルや人間性を成長させるために必要な"勇気"を持っていると確信しています。なぜ私が「勇気」という言葉を強調するのか。それは、人間が成長するためには、結果がわからない不安を抱えたまま"それでもやってみよう"と一歩を踏み出す力、つまり勇気がとても大事だと考えているからです。この勇気によって起こされる行動の積み重ねが、人間を成長させるのだと思います」

「初めてのことを行う時、人は必ず不安という壁に直面します。その壁を突破し、行動へと変化させる根源的な力が勇気です。勇気がなければ行動は起きず、行動がなければ経験が蓄積されず、人間的な成長も進みません。皆さんがこの学院を選んだ時に発揮した勇気は、成長に不可欠なエネルギーなのです」

また、「ライトシップ高等学院は、真面目に誠実に仕事に取り組むことを継続していけば、卒業時には誰もが社会人としての基礎力を確かなものにできるシステムを持っています。」と説明し、明日から仲間たちと頑張っていこうとエールを送った。

「宿泊業の仕事や地域の課題について学びたい」新入生代表スピーチ

新入生代表として、新入生の竹内湖心さんが登壇した。以下は、そのスピーチの抜粋。

「私は、ライトシップ高等学院に入学して"人と協力すること"と"困難に積極的に取り組めること"ができる人間になりたいと考えています。これまでは失敗して周りに迷惑をかけるのが怖く、あまり行動ができませんでした。それを克服できるよう、この学院でたくさんのことに取り組みたいです」

「仕事でも日常生活でも、誰かと協力することはとても大事だと思います。人の力を借りることで、一人ではできなかったことができたり、話し合うことでより良いアイデアが生まれたりします。OJTや地域おこしの活動で、たくさんの人と協力し、課題解決を目指して頑張りたいです」

「また、宿泊業の仕事や地域の課題について学びたいと考えています。私は宿泊施設の落ち着いた雰囲気が好きなので、そのような空間を提供する仕事に挑戦したいです。地域貢献活動では、お世話になっているこの地域のために、自分たちで考えて実行し、失敗からも学んでいきたいです」

「将来の夢はなんとなく決まっていますが、この3年間で選択肢を広げ、スキルを高めていきたいです。母から勧められてこの学院を知りましたが、一期生の先輩方の姿を見て「私もこんな風に活躍したい」と強く思うようになりました。1日でも早く先輩たちのようになれるよう頑張ります」

新スタッフ挨拶

木村　和史
(副学院長、上越校クラスメンター)

新潟県糸魚川市生まれ、上越市育ち。岩手大学大学院農学研究科修了。専門は草花園芸。岩手県及び新潟県の県立高校で農業科の教諭として16年間勤務したのち、新潟県教育庁指導主事、教頭、校長を歴任。

「3月まで県立高校(高田農業)の校長をしていました。気持ちを新たに、皆さんのために精一杯尽くします」

仲川　晃
(県央準備室マネジャー)

新潟県上越市出身。大学卒業後、サービス業・施設管理業への従事を経て、新潟県公立学校(中学校・国語)の教員として20年勤務。上中下越各地の学校での勤務経験あり。

「3日前まで新潟市の中学校に勤務していました。この学院の理念は進路に迷っている生徒や保護者に有益だと確信し、勇気を持って転職してきました。一緒に頑張りましょう」

あさひの編集後記

入学式での松本学院長のお話を聞き、改めて「勇気」の重要性に気づかされました。私自身、ライトシップ高等学院に入学してからの1年間は「勇気」の連続だったなと、記事を書きながら振り返っています。

OJTを始めてから、最初は社内の先輩ともうまくコミュニケーションできていなかったと思いますが、話す内容や話し方などを工夫していく中で、徐々に会社になじみ、任せてもらえる仕事も増えてきたと感じています。最近は、お客様のInstagram運営を任されることもあり、社外の社会人とも接する機会が増えてきました。関わる領域が広がっていることに、自分自身の成長を実感しています。そのきっかけは、試行錯誤の一回目をまずは試してみる勇気だったかなと、改めて思います。

今の目標は、Instagram運営をしっかりと行い、お客様やイベントの存在を多くの人に知ってもらうことです。これからも松本学院長が述べたように、「真面目に誠実に仕事に取り組む」という姿勢を継続していき、日々の学びに励んでいきたいと思います。

お知らせ Information

5/1(金)~5/15(金) 企業見学期間(1年生のみ)
1年生は、5/7(木)登校日はありません。(企業見学を優先)

5/18(月)~5/29(金) 保護者面談期間(2年生のみ)

5/25(月)~6/5(月) インターン 前期(1年生のみ)
期間中の木曜日は登校日です。

5/28(木) 救命講習(全学年。上越校・サテライト合同)
9時開始。普段より1時間早まります。

■発行：ライトシップ高等学院
所在地：〒942-0011
新潟県上越市港町1丁目9-1 直江津港佐渡汽船ターミナル2階
TEL.050-8889-2254

■広報紙 撮影・取材・文 土田 あさひ(ライトシップ高等学院 1年生)
所在地：〒942-0074 新潟県上越市石橋2丁目6-27
TEL.025-546-7275
広報紙製作：株式会社グローバルアセットモーションズ